

ピンクリボンかながわ

ピンクリボンは、乳がんの早期発見・早期治療の大切さを伝えるシンボルマークです

「ピンクリボンかながわ 2008」開催にあたって

(財)神奈川県予防医学協会 事業局長 栗原 博

今、日本人では乳がんにかかる女性が年々増加し、女性の20人に1人が乳がんになるといわれています。また乳がんが亡くなる女性の数も急増して年間10,000人を超えており、その半数が30歳代から50歳代の女性です。

ピンクリボン運動は、乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の大切さを伝える運動として、80年代から米国で盛んになり、今では日本でも全国各地でピンクリボン運動が展開されています。

神奈川県予防医学協会では、昭和48年から乳がん検診に取り組んできましたが、長年の実績をもとに乳がんの啓発活動の一環として3年前よりピンクリボン運動を展開してまいりました。

今年は、横浜ベイスターズ、湘南シーレックス、その専属のチアチームdiana(ディアーナ)、横浜スタジアムなどの協力を得て、横浜スタジアムを中心に3月の最終オープン戦からピンクリボン運動を展開することとなりました。ぜひ球場へ足を運びたいので、私たちのピンクリボンブースを訪れていただければと思います。

またこの3月には約600人の子どもたちが描いたかわいい絵がラッピングされたマンモグラフィ検診車も神奈川県から貸与されました。県内の乳がん検診を行うとともに、さまざまなイベントへ参加して啓発運動を展開してまいります。

乳がんが罹らなくすることはできませんが、早期発見であれば90%以上が治癒し、命を落とさずに済みます。早期発見は知識さえあれば可能です。自己触診を行い、精度の高いマンモグラフィ検診を受けることが早期発見の決め手です。

協会は、これを機会にピンクリボン運動に賛同いただける関係者や団体とともに手を携え、「ピンクリボンかながわ」という組織作りにも着手してまいります。これからもより多くの県民の方々へ乳がん検診の意義をお知らせできるよう、ピンクリボン運動を展開してまいりますので、どうぞご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

あなたと、あなたの大切な人を がんで失わないために

今年は、横浜ベイスターズ、湘南シーレックス、そしてハマのチアチームdiana(ディアーナ)とともに

「ピンクリボンかながわ」は、「少しでも乳がんが亡くなる人を減らしたい…」この思いを胸に3年前に小さな産声をあげました。NPO法人乳房健康研究会をはじめ、賛同する団体・関係者との協力を得ることができ、「ピンクリボン運動」をスタートしました。

今年は、その声を聞き届けてくれた、横浜ベイスターズ、湘南シーレックス、横浜ベイスターズ専属のチアチームdiana(ディアーナ)、横浜スタジアムなどの協力を得ることができ、横浜スタジアム試合開催の週末(土・日)を中心に活動を展開することとなりました。5月には「母の日イベント」(裏面参照)も企画。少しでもたくさんの方々へピンクリボンのメッセージを伝えたいと思います。

ホッシー、ホッシーナ、ホッシーソたちもピンクリボン運動を応援しています!



diana(ディアーナ) 3月21日 激励会(検診計画部・野口正枝撮影)



「頑張れ 横浜ベイスターズ」 3月21日 激励会(検診計画部・野口正枝撮影)



diana(ディアーナ)もピンクリボンをサポート 3月23日 オープン戦。ピンクリボンブースで

diana(ディアーナ)とは

横浜ベイスターズ専属の、横浜ベイスターズを応援する女性スタッフで構成するチアチームです。dianaとはイタリア語で「月の女神」。(横浜ベイスターズホームページより <http://diana.baystars.co.jp/>)

母の日イベント

in 横浜スタジアム & 横須賀スタジアム

ピンクリボンブースでお会いしましょう

横浜スタジアム(予定)

5月6日(祝) 15:00

横浜ベイスターズ VS 東京ヤクルトスワローズ



スタジアムをピンクに染めよう!

横須賀スタジアム(予定)

5月11日(日) 13:00

湘南シーレックス VS 東北楽天ゴールデンイーグルス



●diana(ディアーナ)による子どもたちのダンスコンテスト

- ・参加者にはdianaピンクリボンボールペンプレゼント
- ・優勝者には特別プレゼント



●ピンクリボンパッチ、ピンクリボンリストバンドのチャリティー販売

●ピンクリボンブース

- ・乳がん啓発リーフレット配布・乳房触診体験・自己触診啓発活動

●マンモグラフィ検診車の展示と見学

3月12日に披露式が行われたマンモグラフィ撮影検診車。NPO法人J.POSHなどから神奈川県へ寄贈され、神奈川県予防医学協会へ貸与された。約600人の子どもたちが描いた絵がラッピングされている。この検診車を展示予定。(写真中央は披露式で挨拶を行う松沢成文県知事、右から2人がJ.POSHの田中完理理事長、左が土屋尚尚協理理事)



安心して暮らすために…マンモグラフィ検診を

日本女性の20人に1人が乳がんにかかる

日本では、乳がんにかかる女性は年々増えており、今年では年間3万5千人以上の女性が乳がんにかかっており、日本女性の20人に1人が乳がんになるといわれています。また2015年には4万8千人に達すると推定されています(図1)。しかも40歳を境に急増し、45歳から49歳に発症のピークがあります(図2)。つまりほかのがんと違って社会や

家庭で働き盛りの、女性として最も充実した時期に罹ってしまうのがんです。

図1 乳がんの罹患数と死亡者数



図2 年齢階級別乳がん患者数



※「もっと知りたい乳がん」日本乳がん協会H19.3.30

表 乳がん標準化死亡比が高い都道府県

| 都道府県 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 乳がん(女性)標準化死亡比 | 131.6 | 114.7 | 109.7 | 107.4 | 106.1 |
| 神奈川県 | | | | | |

標準化死亡比: 全国年齢階級別死亡率を標準の年齢階級にかけて、期待死亡数を出し、実際の県の死亡数との比です。厚生労働省老健局保健課

神奈川県はワースト2位

亡くなる方も、ここ50年間で7倍近く増えており、2005年で1万人を超えました。また乳がんは都市型のがんともいわれ、全国平均を100として算出される地域別の標準化死亡比をみると神奈川県はワースト2位です(表)。

マンモグラフィ検診を

マンモグラフィ(乳房X線)検診で発見された乳がんの7割以上が早期がんです。早期がんで発見されれば90%以上が治癒するといわれています。ぜひ定期的にマンモグラフィ検診を受けてください。

●お申し込み・お問い合わせ

神奈川県予防医学協会・検診計画部

0120-108-522

定期的な習慣を 神奈川県予防医学協会のマンモグラフィ撮影は、女性技師が担当します。当協会では全国的に見て、数少ない医師・技師・施設の3つすべての認定を「マンモグラフィ検診精度管理中央委員会」から受けています。安心して受診してください。

